

キリストの啓示

メッセージ 1:	啓示録において	イエスの証しのための神の忠信な証人
メッセージ 2:	アビスにおいて	キリストは死とハデス[陰府]のかぎを持っている
メッセージ 3:	召会において	金の燭台の間を歩く人の子としてのキリスト
メッセージ 4:	昇天において	獅子・小羊
メッセージ 5:	わたしたちにおいて	命の木
メッセージ 6:	全地において	永遠の王であるキリストが来て地を所有することと神の奥義が完成されること

メッセージ 6

永遠の王であるキリストが来て地を所有すること
神の奥義が完成されること

聖書：啓 10:1-7, 11:15-18

永遠の王であるキリストが来て地を所有することと神の奥義が完成されること	
永遠の王であるキリスト	啓 11:15 第七の御使いがラッパを吹いた。すると、天に大声があつて言った、「世の王国は、わたしたちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」。
来て地を所有する	啓 10:1 またわたしは、もうひとりの力強い御使いが雲に包まれて、天から下って来るのを見た。彼の頭の上には虹があり、彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった。 啓 10:2 彼の手には、小さな開かれた巻物があった。彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた。 啓 10:3 そして獅子がほえるように大声で叫んだ。彼が叫んだ時、七つの雷がそれぞれの声を発した。
神の奥義が完成される	啓 10:7 しかし、第七の御使いが声を発する日(days)、彼がラッパを吹こうとしている時に、神の奥義は完成される。神が彼の奴隷である預言者たちに、福音を宣べ伝えたとおりでである」

10章1-11節、第六と第七のラッパの間に挿入されたビジョン

第一から第四のラッパ	第六の封印と最初の四つのラッパは大患難の準備(前奏、序幕)です。これらの災難では、神はまだ直接には人に触れません。
第五のラッパ	サタンは地に投げられ、アビスを開き、直接に人を苦しめる
第六のラッパ	二億の騎兵が人類の三分之一を殺す
第七のラッパ	大患難が終わり(反キリストが打ち破られ、火の池へと投げ込まれる;サタンがアビスに閉じ込められる)、この時代が終結し、神の奥義は完成されます

永遠の王であるキリストが来て地を所有することと神の奥義が完成されること			
I	永遠の王であるキリスト	A	主は千年王国と新天新地において永遠にわたって王とし支配する
		B	神のパーソンは永遠の王であり、彼の統治は永遠の王国です
II	キリストは来て地を所有する	A-B	もうひとりの力強い御使いが天から下って来る
		C	「雲に包まれて」
		D	「彼の頭の上には虹があり」
		E	「彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった」
		F	「彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた」
		G	「[[彼は]獅子がほえるように大声で叫んだ」
III	キリストは神の奥義を完成する	A-B	明らかにされている時代
		C	奥義の時代

永遠の王であるキリストが来て地を所有することと神の奥義が完成されること			
日	段落、思路	主題	要点
1	永遠の王であるキリスト	主は千年王国と新天新地において永遠にわたって王とし支配する	第七の御使いがラッパを吹くと王国の時代が始まる
			キリストは永遠にわたって王として支配する
2	キリスト	神のパーソンは永遠の王であり、彼の統治は永遠の王国です	神のパーソンと統治は永遠に変わらない
			神のあわれみは尽きることがなく、朝ごとに新しい
3	キリストは来て地を所有する	キリストはもうひとりの力強い御使いであり、天から下って来る	もうひとりの御使いが天から下って来る
			「雲に包まれて」「彼の頭の上には虹があり」
4	キリストは来て地を所有する	キリストは来て地を所有する	「彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった」
			「彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた、獅子がほえるように大声で叫んだ」
5	キリストは神の奥義を完成する	明らかにされている時代と奥義の時代	明らかにされている時代
			奥義の時代
6	キリストは神の奥義を完成する	第七のラッパが吹き鳴らされる時に、すべてこれらの奥義は完成されます	キリストと召会は奥義です
			キリストは神の奥義を完成する

結びの言葉
キリストが永遠の王であることを見る
王国の福音を全地の宣べ伝える
奥義の時代を信仰をもって実体化する

主は千年王国と新天新地において永遠にわたって王とし支配する

I. 啓示録第 11 章 15 節から 18 節と第 12 章 10 節が示していることは、わたしたちがキリストを永遠の王として経験し享受することができるということです：

* 第七の御使いがラッパを吹くと王国も時代が始まる

A. 「世の王国は、わたしたちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」——啓 11:15 後半：

1. 第七のラッパが吹かれる時、大患難が終わるだけでなく、この時代も終結し、神の奥義は

完成されます (10:7)。そして別の時代、王国時代、千年王国が始まります。

2. キリストが再来して、諸国民を裁いた後、この世の王国はキリストの王国となります——ダニエル 7:13-14。 2:44-45。
3. ここで主が永遠にわたって王として支配するのは、主が千年王国と新天新地において、永遠にわたって王として支配することです——啓 22:5。

***神のパーソンは永遠の王であり、彼の統治は永遠の王国です**

B. 「エホバよ、あなたは永遠にいまし、あなたの御座は代々に至ります」——哀 5:19 :

1. 神の永遠の存在と彼の御座は、彼の慈愛とあわれみと信実より高いのです——3:22-23。
2. 神の慈愛とあわれみは変動することがあり得ますが、神のパーソンと彼の統治は永遠に変わりません。
3. 新エルサレムで、神は彼のパーソンと統治において完全に明らかにされます。彼のパーソンは永遠の王であり、彼の統治は彼の永遠の揺り動かされない王国です (ヘブル 12:28。啓 22:3)。この両者は、神が彼の民を対処することでの揺り動かされない土台です。

キリストが来て地を所有する

II. 啓示録第 10 章 1 節から 7 節には、キリストが来て地を所有するという明確なビジョンがあります:

A-B:もうひとりの力強い御使いが天から下って来る

- A. この章においてキリストは、「もうひとりの力強い御使い」 (1 節) であり、それは、第 7 章 2 節、第 8 章 3 節、第 18 章 1 節のもうひとりの御使いと同じようにです。
- B. ヨハネは、もうひとりの御使いが 「天から下って来る」 のを見ました——10:1a :
 1. キリストは今や天から下って来つつあります。
 2. このビジョンは、キリストが依然として地に来る途上であることを暗示しています。

***「雲に包まれて」**

- C. キリストは 「雲に包まれて」 います—— 10:1b :
 1. まだ彼は、第 14 章 14 節、マタイ第 24 章 30 節、第 26 章 64 節のように 「雲の上に (雲に乗って) 」 いるのではありません。
 2. 「雲の上に」 いることは、公に来ることであり、「雲に包まれて」 いることは、ひそかに来ることです。
 3. キリストは公にではなく、ひそかに来つつあります。ついには、啓示録第 1 章 7 節とマタイ第 24 章 30 節に述べられているように、キリストは地のすべての部族によって見られます。
 4. 啓示録第 10 章の時でさえ、キリストが来ることは依然としてひそかなものです。
 5. 彼は第 14 章まで雲に包まれています。第 14 章のとき、彼は雲の上に座し、そして彼の来ることは公になります。
 6. この事によってわたしたちが見ることができるのは、キリストが大患難の前に来るという一般的な教えが不正確であるということです。

***「彼の頭の上には虹があり」**

- D. 「彼の頭の上には虹があり」 ——10:1c :
 1. ここの虹が示していることは、キリストが地を裁く時、来て地を所有する時、地に関して 神がノアと結んだ契約をキリストが守るということです——創 9:8-17。
 2. それはまた、キリストが、その周囲に虹のある御座に座している神にしたがって裁きを執行することを示しています——啓 4:2-3。
 3. 啓示録は、神が地とすべての住民を裁くことを啓示しています。
 4. 神の御座の周囲の虹が表徴していることは、神が契約をする神、信実な神であって、地に対する裁きを執行する時に彼の契約を守ることです。
 5. 彼は再び洪水をもって人類を裁くことをせず、またすべての人類を滅ぼすこともせず、人類の一部分を保って、彼の栄光のために新しい地の諸国民とならせます——21:24, 26。

***「彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった」**

E. 「彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった」 ——10:1d :

1. キリストは、地上の民に公に来るのが間近な時、太陽のようになるのであって、明けの明星のようになるのではありません。 明けの明星は、夜明け前の最も暗い時に、主を愛し彼を待ち望む者たちに現れます。

2. 1節の火は、神の聖を表徴します（出 19:18. ヘブル 12:29）。神の聖にしたがって、キリストは彼の裁きを地に執行します。

***「彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた」**

F. 「彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた」——啓 10:2 後半：

1. キリストが足を海の上と陸の上に置くことは、それらを踏むことです。それらを踏むことは、それらを所有することです——申 11:24. ヨシュア 1:3. 詩 8:6-8。
2. これは、キリストが下って来て地を所有しようとしていることを示しています。
3. 彼だけが、神のエコノミーの巻物を開くのにふさわしく、彼だけが、地を所有する資格があります。

***「[彼は]獅子がほえるように大声で叫んだ」**

G. 「[彼は]獅子がほえるように大声で叫んだ」——啓 10:3 前半：

1. 獅子のほえる声が、王の激怒にたとえられています——箴 19:12. 20:2。
2. これは、キリストが地の王として、激怒を引き起こすことを示しています。

キリストは神の奥義を完成する

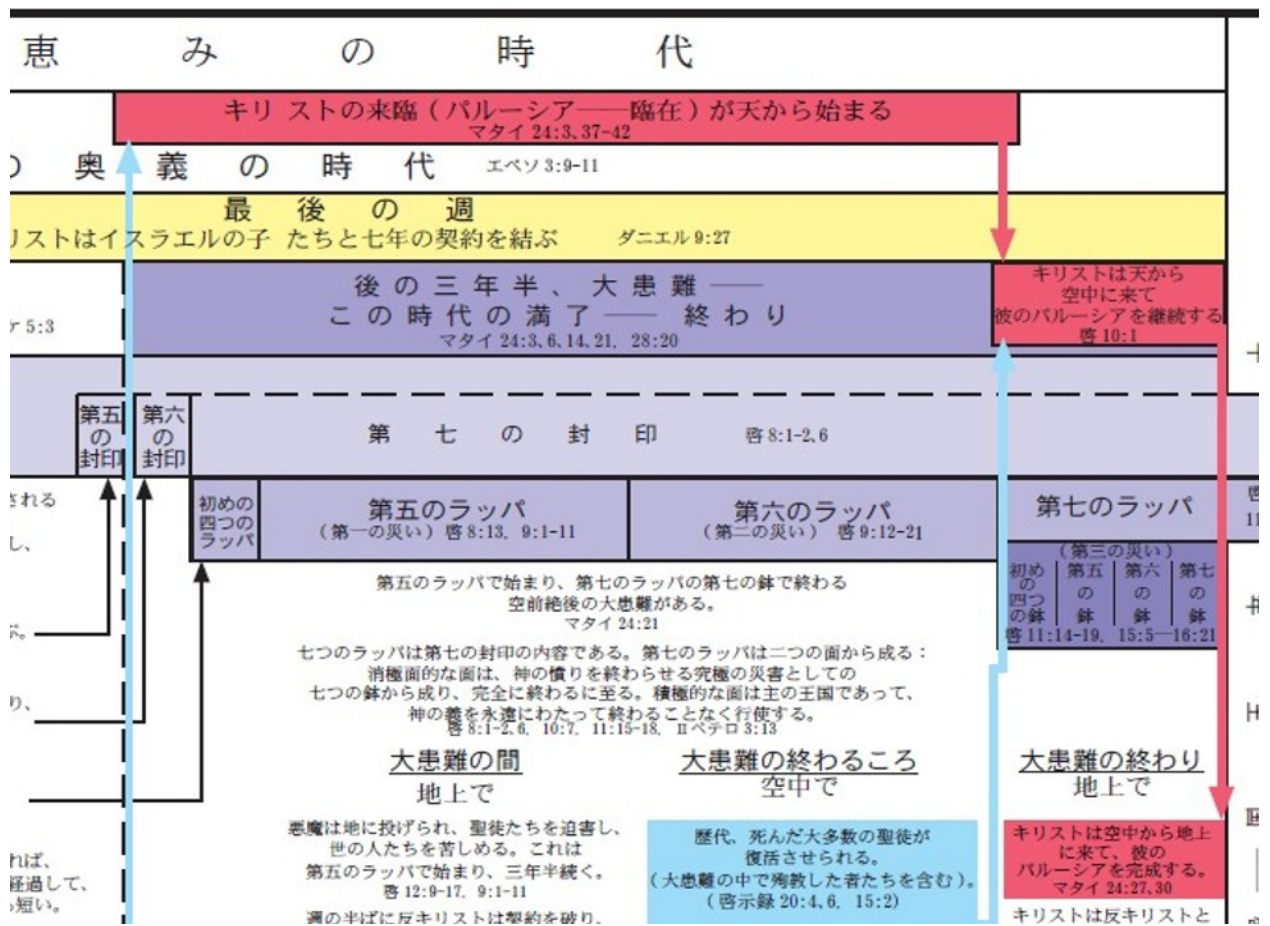
III. 「神の奥義は完成される」——啓 10:7 前半：

***A,B あらゆることが明らかにされている時代**

- A. アダムからモーセまでの時代、またモーセからキリストまでの時代では、あらゆることは明らかにされ、現されて、何の奥義もありませんでした。
- B. 千年王国の時代と新天新地では、あらゆることは明らかにされ、もはや奥義はありません。

***あらゆることが奥義である時代**

- C. キリストから千年王国までの時代、すなわち召会時代、恵みの時代では、あらゆることは奥義です：
 1. 奥義の時代の開始であるキリストの肉体と成ることは、奥義です——I テモテ 3:16：
 - a. キリストの肉体と成ることを通して、無限の神は有限な人の中へとたたらされました。
 - b. 子なる神だけでなく、神全体が肉体と成りました。このゆえに、肉体と成ったキリストは、肉体において現された神全体です。
 2. キリストは神の奥義です——コロサイ 2:2：
 - a. 神は奥義です。そしてキリストは、神を表現する神の具体化として、神の奥義です。
 - b. キリストは神の奥義として、神の具体化、定義、説明です。神が行なおうとするすべては、キリストと関係があります。
 - c. キリストの中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいます。すなわち、三一の神の豊満が、肉体のかたちにおいてキリストの中に住んでいます——9節。
 3. 召会はキリストの奥義です——エペソ 3:4-6：
 - a. キリストは奥義です。そして召会は、キリストを表現するキリストのからだとして、キリストの奥義です。
 - b. この奥義は神のエコノミーです。神のエコノミーは、神の具体化であるキリストを、神の選ばれた民の中へと分与して、からだを生み出し、キリストにおける神の具体化の増し加わりとならせ、神に団体的な表現を得させます。
 - c. キリストと召会は一つ霊であり、偉大な奥義です——5:32。
 4. 天の王国（マタイ 13:11）、福音（エペソ 6:19）、キリストの内住（コロサイ 1:27）、奥義の時代の終わりとしての、聖徒たちの来たるべき復活と変貌（I コリント 15:51-52）は、すべて奥義です。
 5. 第七のラッパが吹き鳴らされる時に、すべてこれらの奥義は全うされます。ですから、神の奥義は完成されます。



クリストの来臨(パルーシア)の三つの段階		
大患難の前	天から始まる	天の御座から始まる 啓 12:5 彼女は一人の子、男の子を産んだ。この子は鉄の杖で、すべての諸国民を牧養することになっている。彼女の子供は、神に、神の御座に携え上げられた。
大患難の終わるころ	天から空中に来る	雲に包まれて(ひそかに下って来る) 啓 10:1 またわたしは、もうひとりの力強い御使いが雲に包まれて、天から下って来るのを見た。……。
大患難の終わりに	空中から地上に来る	雲に乗って来る(公に現れる) マタイ 24:30 その時、人の子のしるしが天に現れる。そして地のすべての部族は嘆き悲しみ、人の子が力と大いなる栄光をもって、天の雲に乗って来るのを見る。